

織物の知識、技術・技能、新商品開発の手法を学ぶ研修の実施

～丹後織物産地の生産体制の維持に向けた17コースを開講～

京都府織物・機械金属振興センターでは、職員等が講師となり、織物製造に必要な基礎知識、高齢化が進む工程（製織、たて継ぎ、織機調整）の内製化、他事業者との連携による新商品開発など幅広い研修を、年間を通じて実施します。

丹後織物産地の維持に向けた当センターの取組を、周知・取材ください。

1 実施内容

- ・ 当センターの織機、撚糸機、試験機、顕微鏡、その他の機器を稼働させ、座学や実技による17コースを実施（詳細は次頁のとおり）
- ・ 丹後地域外からの受講や夜間の受講のニーズに対応した、オンデマンド方式の研修を初実施
- ・ 本研修から生まれた日常雑貨ブランド「たてつなぎ」を講師とする、他の事業者や異業種との連携による新商品開発コースを初実施
- ・ また今年度は、織機の分解・組立てや、「織機調整研究会（仮称）」による相互研修など、織機調整に関する研修を重点実施

2 実施期間

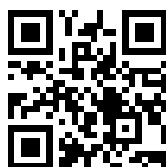
- ・ 令和8年4月～12月

3 実施場所

- ・ 当センター（京丹後市峰山町荒山225（丹後・知恵のものづくりパーク内））
- ・ 丹後織物フェニックスセンター（京丹後市大宮町河辺3188（丹後織物工業組合内））
- ・ 事業者の現場 等

4 各コースの募集・申込方法

- ・ 各コース開講約1カ月前に、当センターのホームページやSNSで案内します。



[ホームページ](#)



[Instagram](#)

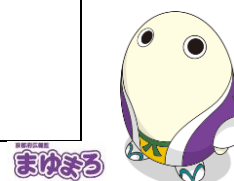
（次頁あり）

【本報道発表に関するお問合せ】

京都府織物・機械金属振興センター

技術支援課 井澤課長、徳本主任研究員

TEL：0772-62-7402、メール：y-tokumoto20@pref.kyoto.lg.jp



令和8年度丹後織物人材育成研修実施要領

- 1 目 的 丹後地域の基幹産業である織物製造や関連工程に関わる人材に対して研修を行い、産地の生産体制を維持することを目的とする。
- 2 内 容 織物に関する基礎知識、製造技術や技能、新商品開発の手法等を学ぶ17コースを実施する。各コースの概要や実施予定時期は以下の表のとおりとする。
- 3 主 催 京都府織物・機械金属振興センター
- 4 対象者 丹後地域等の織物製造や関連工程の事業者、従事またはこれから従事しようとする者とする。
- 5 申込等 各コースの申込方法及び定員等は、開講約 1 カ月前に当センターのホームページ等に掲載する募集案内に示す。

番号	コース名	講師	回数 (予定)	概要	実施時期 (予定)
1	織物基礎【対面方式】	小松副主査	3 時間×5 回	織物の製造に必要な知識について、実際に顕微鏡、試験機、撚糸機、織機等を利用して学びます。	5～6 月
2	織物基礎【オンデマンド方式】	小松副主査	1 時間×5 回	織物の製造に必要な知識について、オンデマンド方式で好きなカリキュラムを選んで学びます。	10 月
3	製織準備【たて継ぎ(手つなぎ)】	新池主任研究員	3 時間×2 回	手つなぎによる、たて継ぎの作業を学びます。	6 月
4	製織準備【たて継ぎ(機械つなぎ)】	外部講師、 荻野専門幹	6 時間×1 回	たて継ぎ機(榊橋詰研究所製)を利用した、たて継ぎの作業を学びます。	10 月
5	製織【基礎】	新池主任研究員、 荻野専門幹	3 時間×最大 24 回	製織に従事され始めた方を対象にマンツーマンで、糸の扱い方、織機の操作、織り合わせ等を学びます。	5～9 月
6	製織【応用】	外部講師	3 時間×8 回	織機やジャカードの日頃の調整、作業環境の整備等について、質疑応答形式で学びます。	10～11 月
7	織物組織と紋織技術	外部講師、 小松副主査	3 時間×最大 18 回	織物組織と機拵えの関係を明確にし、紋データ作成の技術を学びます。	7～11 月
8	織物設計のための基礎知識	小松副主査	3 時間×6 回	糸の太さ、撚り数や撚り構成、糸密度など織物設計に必要な知識を学び、自社の織物を分解します。	11～12 月
9	織機調整【シャトル基礎】	外部講師、 吉岡副主査	3 時間×10 回	シャトル織機の調整方法を学びます。	8～10 月
10	織機調整【レピア基礎】	外部講師	3 時間×3 回	レピア織機の調整方法を学びます。	11 月
11	織機調整【分解・組立】	外部講師	3 時間×10 回	両側4丁シャトル織機(津田駒工業(株)製)を分解・組立して、織機調整の実技を学びます。	10～12 月
12	織機調整【織機調整研究会】	外部講師	3 時間×10 回	織機調整の技術を次代に継承するため、研究会を構成し、会員相互に意見を出し合って学びます。	7～11 月
13	新商品開発【産地ネットワーク構築】	外部講師	2 時間×6 回	他の織物事業者やインタウンデザイナーと連携し、プロダクトの開発から販路開拓までを学ぶワークショップです。	5～11 月
14	新商品開発【縫製】	外部講師	3 時間×15 回	ファッション製品を試作縫製する知識や手法を学びます。	5～10 月
15	新商品開発【ものづくり&機器活用】	新池主任研究員、 荻野専門幹	調整のうえ決定	センターが保有する機器を利用して、新商品を開発する手法を学びます。	4～12 月
16	現場実践研修	新池主任研究員、 荻野専門幹	調整のうえ決定	講師が企業の現場に赴き、研修で学んだ内容を企業の現場で実践する手法を学びます。	4～12 月
17	セミナー【先進事業の見学】	外部講師	1 回	商品開発、販路開拓、生産基盤の維持・発展に向けて、先進的に取り組んでいる企業等を見学します。	9 月

(過去の研修の様子)



製織準備【たて継ぎ（手つなぎ）】コース



製織【基礎】コース



織機調整【分解・組立】コース

【本報道発表に関するお問合せ】

京都府織物・機械金属振興センター

技術支援課 井澤課長、徳本主任研究員

TEL : 0772-62-7402、メール : y-tokumoto20@pref.kyoto.lg.jp

